

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成19年3月22日(2007.3.22)

【公表番号】特表2001-527652(P2001-527652A)

【公表日】平成13年12月25日(2001.12.25)

【出願番号】特願平11-547860

【国際特許分類】

G 01 L 9/04 (2006.01)

【F I】

G 01 L 9/04

【手続補正書】

【提出日】平成18年1月11日(2006.1.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成18年 1月11日

特許庁長官殿

1. 事件の表示

平成11年特許願第547860号

2. 補正をする者

氏名（名称） ソシエテ・ナシオナル・デテュード・エ・ドウ・コンストリュクション・ドウ・モトール・ダヴィアシオン、"エス、エヌ、ウ、セ、エム、ア一。"

3. 代理人

住所 〒540-0001
大阪府大阪市中央区城見1丁目3番7号 IMPビル
青山特許事務所
電話 06-6949-1261 FAX 06-6949-0361

氏名 弁理士 (6214) 青山 葵



4. 補正対象書類名 請求の範囲

5. 補正対象項目名 請求の範囲

6. 補正の内容
別紙のとおり。



請 求 の 範 囲

1. ホイートストンブリッジ (10) のそれぞれのアームに取り付けられた歪ゲージ (J1～J4) と、ブリッジの零ドリフトを温度の関数として補償する手段とを有する圧力センサであって、

超低温における零ドリフトの非線形性を補償するために、ブリッジ (10) のアームの少なくとも一つの歪ゲージを、歪ゲージよりも抵抗がかなり小さく補償回路と並列に接続された抵抗器 (c) と直列に配設し、補償回路は、その一部を形成する並列回路の抵抗に影響を及ぼし、超低温域で温度が低下するにつれて増大するように温度の関数として抵抗が変化する抵抗素子を有することを特徴とする圧力センサ。

2. 補償回路 (20) は、歪ゲージをブリッジのコーナーに接続する接続リード (c) により構成された抵抗器と並列に接続されたことを特徴とする請求項 1 に記載の圧力センサ。

3. 歪ゲージ (J1～J4) と、歪ゲージをブリッジ (10) のコーナーに接続する接続リード (c) とが、基板上の金属の付着層により構成されたことを特徴とする請求項 2 に記載の圧力センサ。

4. 接続リード (c) が金で作製されていることを特徴とする請求項 3 に記載の圧力センサ。

5. 上記抵抗素子 (P) が並列に接続された抵抗器 (c) の抵抗に対する抵抗素子の抵抗の割合が、温度が -196°C 以下に低下すると、100よりも小さく、その後温度の低下とともに減少することを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の圧力センサ。

6. 上記抵抗素子 (P) が、少なくとも一つのプラチナプローブにより構成されていることを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の圧力センサ。

7. 上記補償回路 (20) が、上記抵抗素子 (P) と直列に接続された調整可能な抵抗器 (R) を備えていることを特徴とする請求項 1 乃至 6 のいずれか 1 項に記載の圧力センサ。